

一九九七年度に大阪府立高校(全百制、百五十六校)を中退した生徒の在籍者に対する比率が、七一年度に調査を始めて以来、最高の3%に達したことが、府教委の調査で十二日、わかった。中退者は四千三百五十八人に上り、入学後すぐ高校生活に熱意をなくして辞める傾向が一層強まっている。

中退者数は九〇年度の五千七百二十九人をピークに減少に転じたが、九六年度に再び増加。九七年度は前年度比七十三人減。一方、

府立高 3%が中退

1998.10.13 読売

入学したものの・・・

中退者の比率は毎年2・3—2・4%で横ばいだったが、九六年度に最高の2・9%に増加。九七年度は在籍者数も減ったこ

大阪府教委 昨年度調べ

とから、さらにこれを上回った。

一年時の中退者が61・1%で、前年度より4・6%増加し、うち一学期中の中退者が16%。退学理由は

4358人 1年時6割占める

「もともと高校生活に熱意がない」「授業に興味がない」「授業に意味がわからない」などの「学校生活・学業不適応」が千五百三十三人で、中退者全体の35%を占めた。

高校教育課は「親や教師の勧めで少々進学し、挫折する生徒が目立つ。今後は進路指導面での中学校との連携強化に加え、中退した生徒に高校への編入学や通信制高校への進学、大検などの進路の紹介に努めた」としている。